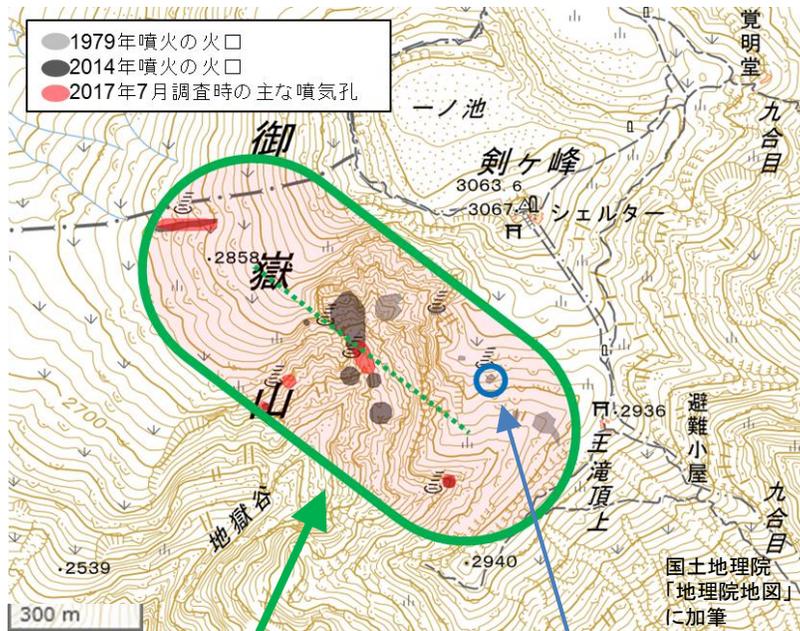


剣ヶ峰南西斜面における想定火口の変更について

- 御嶽山の想定火口域は継子岳から地獄谷に至る広域であることから、災害の規模や発生場所に応じた適切な防災対応がとれるよう、想定火口域全体から噴火した場合だけでなく、南側は1979年以降活動が活発な剣ヶ峰南西斜面、北側は継子岳から噴火した場合の防災対策が御嶽山火山防災避難計画等により予め整理されています。
- このうち、剣ヶ峰南西斜面については、**79-7火口**を中心として噴火した場合を想定してきましたが、1979・2014年噴火の火口列をカバーする形状の**新しい想定火口域**（**地獄谷火口**と称する見込み）に変更し、防災対策を検討することとなりました。

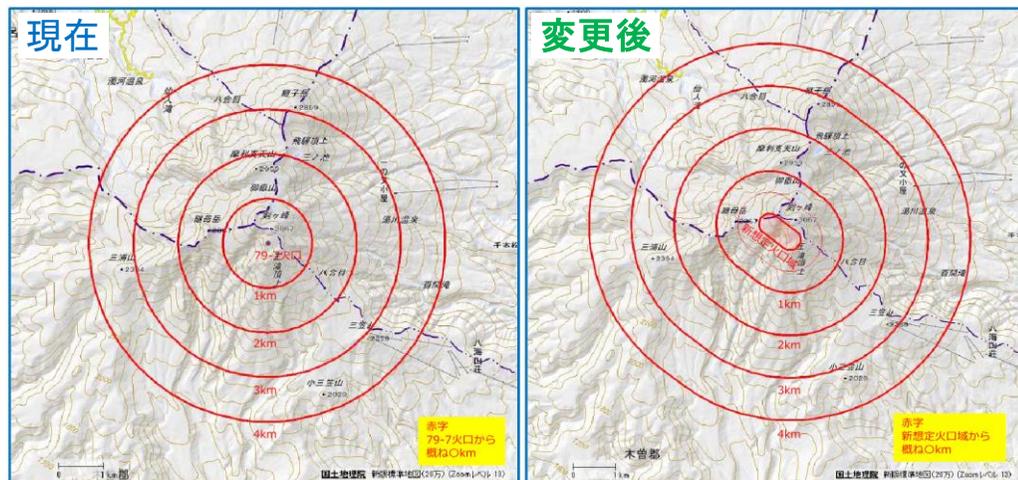
〔剣ヶ峰南西斜面の想定火口〕



新しい想定火口域
(仮：地獄谷火口)

現在の想定火口
(79-7火口)

〔参考：想定火口から1～4km〕



※御嶽山の想定火口域全体及び継子岳については、想定火口の変更はありません。